

「神により頼む&真実の悔い改め 流されない土台」

マルコ6:14~29

■ 野球

WBC(ワールドベースボールクラシック)で日本が勝利し、たくさんの人が盛り上がり元気になりました。最初にWBCを率いたイチローは、日本に帰ってきた時、野球チームの子どもたちに野球を教えており、アメリカでの体験を子どもたちに話をしました。

イチローは、子どもたちに、背が低いことや、環境が悪いことなど関係ないのだということ、どんなに悪く言われたり、悪い状況になっても、信じて頑張れば必ず報われるのだということを教えています。

神様を知っている私たちは尚更、心が変わっていく弱さがありますが、影響を受けず、信じて行うことが大事であり、何が必要で大事なのかを考えなければならないのです。

■ 流されない土台

考えないことにする事が惨めの始まりとなり、自分の人生を駄目にしてしまいます。

私たちは考えるだけではいけません。考えた後に、神様に聞いて、考え方を直して、考えなければならないのです。

先週、神により頼み、真実に悔い改めについて考えてきました。神により頼んで、考えてそして何が悪かったのか示されたのなら、真実に素直に、ごめんなさいをすることです。

そして次に、流されない土台に立つことです。

たくさんの情報、目に入ってくるもの、人の言葉などから影響を受けてはいけません。

神様の声に聞き従うのであって、人の声に聞き従うではありません。しかし、神の御心を誰かを通して言うてくるかもしれません。その言われた言葉について、何が大事か、何が真実か、神様はそのことを通してどう言っているのか、この3つが私たちの判断基準となるのです。

その時その時の最善を選ぶことです。

御言葉は、どう判断し、決断してきたのかを教えているのです。神様は同じことをしなさいと言うとは限らないのです。その時に、神様が言っているのは、私に従いなさいと言っているのです。

私たちはいつも神様に、流されない土台に立って、たくさんの情報の中から、神様の前で考えなければならないのです。

■ 対比的比喩

マルコの福音書6章14~29節の物語は、正しい対比ではなく、理不尽なる対比であり、アダムとイブ、ヘロデとヘロディア、イエスキリストと聖霊そして教会という関係を夫、妻、娘の家族の関係を言いながら、教会がもう一度回復する姿を描いています。

- ①ヘロデ王・・・イエスキリスト
- ②ヘロディア・・・聖霊
- ③ヨハネ・・・イスラエルの民、ユダヤ人
- ④ヨハネの首・・・福音
- ⑤ヘロディアの娘・・・教会

■ ヘロディア ヘロデ 降りる ヤーラド

創世記11:5 バベルの人々が建てた町や塔を見るために、神が天から地に「降りて来られた」

天から降りて来られた存在である、神の御子鳩のように降りイエスを導き、ともに歩まれた御霊の存在の比喩

■ ヨハネ「恵む、あわれむ」ハーナン

創世記33:5 エサウは目を上げ、女たちや子供たちを見て、「この人たちは、あなたの何なのか」と尋ねた。ヤコブは「神があなた様のしもべに恵んで下さった子供たちです」と答えた。ヨハネの首、つまり頭、ローシュ

創世記2:10 一つの川がエデンから湧き出て、園を潤して

いた。それは園から離れて分かれて、4つの源流となっていた。神の理不尽の中にある犠牲的福音 十字架を通して成し遂げる

■ あなたはどちらの国に生きるのか

鹿は喉が渇くと、舌が喉にくっつき呼吸困難を起こしてしまいます。水を飲み、喉を潤していないと窒息死してしまいます。危険を冒して、谷川の水を求めて行き来しています。

聖書の中で、鹿は神の恵みを求める存在として描かれました。御言葉の湖を探し求める存在なのです。

ヘロデは、神様を求めず、自分の面子を保つために誤った決断しました。ダビデは神様に聞き従いました。

私たちはどちらを選びますか？

鹿のように神様を求めると、神様の憩いの水際に置いてくださいと願うのか、それとも人からどう見られているのか、どう判断されているのか、自分の思いを成し遂げなければ気が済まないと思うのか。

福音のゆえに面子を失うかもしれないが、神様はそれで良いと言われています。

イエスキリストの福音は面子では成し遂げられないのです。神様の御言葉を求め、福音を伝えるために、例えそのとき面子を失ったとしても、キリストのゆえに恥を受ける覚悟で立ちます。

しかし、恥はそのままでは終わりません。福音は全世界に広まって、英雄となっています。

御言葉が祝福となりますように。

さいごに

「だれでも私について来なさいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」

それは、私たちが罪を背負うということではなく、十字架は、私たちの肉的欲であり、願いなのもかもしれません。

イエスキリストは、その肉的願いに立って、生きることを捨てて、その十字架に自らの命を絶つことを決意したのでした。

それによって全ての長子になりました。アダムとイブは、その肉的願いによって、自ら十字架を下ろしてしまいました。

背負うことをやめ、その欲に立ちました。ヘロデも同じ様にして罪を犯してしまいました。

罪は戸口で恋い慕う。しかし、人はそれを制するべきです。主は恵の方で、あなたを愛しています。神の前に恵みを求めるなら乾くことはありません。

私たちは、何を選びますか？

今までのやり方で良いのか。神の言葉に立って考えるのか。人の言葉に流されるのか。神に従うのか。目の前にいる人が間違った決断をしているのが分かっているのに最善を伝えないで間違った言葉を伝えてしまうのか。その人を正しい道に戻すのは、あなたにしかできない事かもしれません。

ヨハネは命をかけて決断して、伝えて、イエスキリストの道を備える者となりました。私たちも、神様の前に、ヨハネのように生きる者になりたいのです。

たくさんの情報の中で流されるのではなく、100%の愛で、正しいことを伝えるべきです。

神様の愛に立って、御言葉に立ち、神様の声に聞き従い、正しい道を選んでいきましょう。

(要約者:西寄 達也)

(2023年3月26日)